



座光寺風景

星空観察会（プラネタリウム）

新型コロナウイルス感染防止のため、ソーシャルディスタンスを確保してプラネタリウムを觀賞します。

この日は、飯田市美術博物館のプラネタリウムで星空に関する学習会を行い、座光寺の親子十組二十五人が参加してくれました。

星空に関する様々な話題の中で、今回特に大きく取り上げられたのは、火星について。687日かけて公転する火星は、公転周期の短い地球に追いつかれ、およそ二年二か月に一度地球に接近します。ただ火星の軌道が楕円であることから、接近した場合の地球との距離は一定とはなりません。

八月二十九日（土）、星空観察会が開催されました。公民館育成部は、子どもたちの健全な育成を目的に、子ども桜ガイドや、お茶摘み体験など、様々な事業を行っています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、これまで実施予定の全ての行事が中止となっていました。今回、感染防止対策を万全に行い、今年度初の事業として、星空観察会を開催することができました。

**この秋は火星と地球が大接近！
星空観察会が開催されました**

今回の火星の最接近十月六日は、地球と火星の軌道がかなり近づく「大接近」となり、減多に見られない明るい火星を觀察できることや、中学校の理科で学習する、火星の順行、逆行の仕組みも、プラネタリウムの設備を使って詳しく説明され、小さな子どもも、大人も納得の学習会となりました。

その後予定していた、実際の星空の觀察は悪天候のため残念ながら中止となりましたが、コロナウイルス対策のための新しい日常に対応した公民館活動を実現した意義ある学習会となりました。



プラネタリウムの参加者（飯田市美博）

七月は記録的な大雨

今年の七月は記録的な大雨に見舞われました。

飯田市の七月の月間降水量は734mmにのぼり、三六災害が発生した昭和三十六年六月の642mmの記録などを大幅に上回り観測史上最も雨の多い月となりました。

座光寺では、同月十二日夜、唐沢地区の小洞沢川近くの斜面が崩れ落ち、現場で作業をしていた七十三歳の男性が土砂に巻き込まれ死亡する事故が発生し、その土砂が川をせき止めました。このため下流の唐沢地区の住民三世帯五人に二十五日間の長期にわたり避難指示が出されたほか、住宅に土砂が流れ込むなど多くの被害が相次ぎました。

日照不足による影響も深刻で、七月の月間日照時間は64・4時間と七月としては過去最低を記録し、平年の38%程度の日照しかありませんでした。



崩落のあった現場斜面

が低下し、JAによると座光寺の桃の出荷量は昨年比で三割程度少なくなっているほか、多くの農産物収穫量が減少しました。

飯田市危機管理室の担当者「史上最高の雨が降り、残念ながら犠牲者も出ました。それでも三六災害のような被害にならなかったのは、治水対策が進んだ事と、今回は一時間で30mmを超えるような、短時間に大量の雨が降る事があまり無かった事が要因と考えられる。大災害がいつ発生してもおかしくない状況だった。住民の皆さんには、災害に対し日頃の備えをお願いしたい」とおっしゃっていました。

防災ハザードマップ 説明会が開催されました



八月二日(日)四区住民を対象に防災ハザードマップ説明会が開催され、二十名を超える皆さんが集まりました。

説明は飯田市危機管理室の後藤さんが行い、座光寺周辺の風化花崗岩の地質や、過去の災害の経験などから大雨が降った場合、この地域は土石流の被害を受けやすい土地であることが紹介されました。

続いて、参加した皆さんが実際にハザードマップで自分の家の周辺をみて、大雨が降った場合に、自分はどういう行動するかを考える「わが家の避難計画づくり」を行いました。この計画は災害ごとに、いつ、どこへ、どこを避けるかをあらかじめ家族などと考えておくもので、自分の家の周辺の危険を予測し、どのような場合に、どこに避難するかを、各家庭の事情にあわせて考えます。

計画を作成するにあたって、「一時間に50mmの雨が予想されるといった予報」や、「避難準備情報が出た場合」

など、情報を行動に移す具体的な数値などを決めておくこと、良いことや、避難場所は、避難所以外でも良く、孫の顔を見に娘の家に避難するなど、自分が行きやすい所を考えておくと良いと、アドバイスされました。

最後に、防災ハザードマップは、地形などをもとに、ある程度機械的に作っており、例えば、がけ崩れの指定は、高さ5m以上のがけを対象にしているが、それ以下のがけが崩れないとは限らないので、地元に住む方の経験で、「いつもと違う」と感じた時は、近所に声をかけあって、ぜひ早めの避難を心掛けてほしいと呼びかけていました。

このハザードマップ説明会は、区または地区ごと、座光寺全地域を対象に行われます。



わが家の避難計画を検討中

コロナ禍・休校、何が不安だったか 「座光寺の子どもを語る会」

「語る会」推進委員長 塩澤 哲夫

座光寺の子どもの健全な育成を願って、七月十八日(土)

に、地域みんなで考えて語り合う会、「座光寺の子どもを語る会」を開催しました。

テーマは、突然のコロナ禍、休校のなか、保護者の皆さんは、何が不安でどんな心配があったのか、それにどう対応したのか。地域全体でそれを知って、今後に備えよう。です。

【当日出された主な意見は】

- 一、不安や心配なことは
 - ・自分で学習ができるのか。
 - ・生活リズムが乱れる。
 - ・外に出ないのでストレスがたまった。



・バランスの良い食事がとれない。

・ゲームにはまった。

二、どう対応したか

・一日の時間表、時間割を作って過ごした。

・大きい子が面倒を見た。

・祖父母に応援を頼んだ。

・インスタント食品が多くなってしまった。

・子どもだけで作って食べられるものに。

・一緒に散歩に出た。体力づくりも兼ねて。

・ゲームの時間設定をした。

・「今こそ子どもとかかわれる時」と思っ、少しの間でも子どもと話をした。

三、これから考えたいことは

・(学校で)自習のやり方を教えてほしい。

・一日のスタートをつくりたい。そして、メリハリをつけたい。

・少しでも友達や先生と顔を合わせることができると、子どもは落ち着く。

・子どもと話すことなど、心を支えていく工夫をしたい。



貴重な意見交換ができました

・ストレスを貯めないように、体を動かせる場所や体験づくりをしたい。

・みんなが休校のことを知っているといえるといい。

・地域でも声をかけたり見守りができる体制があるといえる。

・会所などで、フリースクールや寺子屋のようなことができるか。場所が欲しい。

・事前にといたしたい

アンケートからは

一、どんなことが不安

・自習学習なので力がついていないか分からない。

・家の中から出ないので体力が落ちている。

・食べ物の好き嫌いが多くなった。

・親がいないのでゲームする

時間に制限ができない。

・先が見えない生活。

二、どのように対応したか

・インターネットアプリでの学習も考えた。

・家で一人で過ごせるように考えた。

・親も家にいるときや休みの日は一緒に活動する。

・何もできず、ただ再開を待つのみだった。

三、第二波に備えて

・学習を学校に任せきりにしないで、家でもきちんと過ごせるようにすることが大事。

・全員が登校できる分散登校を続けてほしい。

四、その他

・もうこれ以上家にいることには限界がある。

・学校、児童センターで預かってもらいたい大変助かった。

【事後の推進委員会の見返しでは】

・今までは一家庭ごとの悩みだったのが、話し合うことで悩みが共有できた。

・保護者も、学校や地域へのサポート側になりたいと思っている。

・各地区で、子どもたちが過ごせる場を作れないか。地



域内のつながりが復活すると思っている。

・学校には、勉強と友達に会いに行っていると思う。学校の教室を開放した見守りができたらいい。

・子どもたちの心の安定を考

えることが大切だと感じている。

【今回の「語る会」の取り組みを通して】

各家庭の悩みやご苦労されたことを、地域でも学校でもお互いに知り合い共通にできたのは良かったと思います。

座光寺を託す子どもたちをみんなが育てるように、みんなが協働できるようにしたいと願っています。

以上、ご報告いたします。

クラブ サークル 紹介

座光寺で活動するクラブ サークルを紹介します。

今回は座光寺で元気いっばい活躍するスポーツ少年団の皆さんです。

座光寺ドッジボールクラブ

めざせ長野県一位

二〇〇五年に発足し、今年で十六年目を迎えました。座光寺ドッジボールクラブでは現在、座光寺小学校六年生六人と松尾小学校との二校合同で活動しています。月・火・土曜日に座光寺小学校で活動しています。

ドッジボールクラブでは、春、夏の年二回、全国大会出場を目指して練習に励んでいます。ドッジボールの試合時間はわずか五分間。その短い試合展開の中で攻撃と守備が



入れ替わり、残り十秒でも逆点してしまうくらい手に汗を握る試合になります。

また、中学校生活に繋がる礼儀作法や、様々なスポーツに役立つ運動神経、体力強化へも取り組んでいます。ドッジボールを通して、挨拶、礼儀、根気、根性、集中力、協力、助け合いの精神が身に付くように、日々の練習に取り組んでいます。

年間計画として年一回の夏合宿、練習試合では愛知県、三重県など県外チームとも交流をしています。今年の六年生は、一年生の頃から大好きな先輩を目標に六年間頑張ってきました。新型コロナウイルスで大会は中止となっていますが、ラスト一年間最後まで諦めずに、長野県一位を目指して子どもたちは頑張っています。

座光寺ベースボールクラブ

心機一転で連戦連勝！

座光寺少年野球クラブがこの地域にできてから四十二年になります。今年度から名称を『座光寺ベースボールクラブ』に改め新たな気持ちでチーム全員が『全力野球』をモットーに日々練習を行っています。現在は六年

生七名を軸に新たに一年生二名を加え総勢二十二名で活動しています。

今年はコロナウイルスの影響で春先は全体練習もできず、野球大会も中止、延期になり子ども達も悔しい思いをしてみました。それでも一人一人が自主練習を行い野球に必要な力を身に付けてきました。

全体練習が再開され、今年目標『南信大会出場』を目指し厳しい練習を行い、充実したチーム練習で力をつけてき



ました。七月に入り喬木大会で優勝し、南信大会出場を手にすることができ、飯伊大会でも優勝し飯田下伊那のチームで一位の称号も手にすることができました。立て続けに赤石ライオンズ杯、丘の上大会も優勝し、すでに昨年の優勝回数を上回る結果です。何よりも名称が『座光寺ベースボールクラブ』になってから一度も試合で負けていないと



いう事実があります。この先、連勝記録がどこまで続くのか楽しみです。一人一人が力を発揮しチームワークで最高の結果を残すことをチーム全員が、そして保護者も期待しています。座光寺の皆さんご声援よろしくお願います。

6月27日、元プロ野球選手の古木さん、呉本さんに、ご指導いただきました。

高陵Jrミニバスケットクラブ



ミニバスの仲間になろう！

私達、高陵Jrミニバスケットクラブは五年生二人、三年生三人、二年生一人の六人で

活動しています。今は人数が足りなくて、試合に出られませんが、土曜、日曜の練習で基礎練習をがんばってやっています。たくさん走るの

は大変で、辛い時もあるけど、体力を付けるために頑張って走ったりシュートも何回も練習して入るようになった時はとてもうれしいです。

今は人数不足で試合

に出られませんが、仲間を増やしてみんなで練習して試合に出られるように頑張りたいです。興味がある方は、見学からでも見に来てください。

飯田ゼットキッズ

バレーボールに夢をのせて

飯田ゼットキッズは、座光寺小学校の栗木先生と熱心なコーチ陣のもと、男子九名、女子十名総勢十九名で活動しているバレーボールチームです。

発足五年目と若いチームですが、三年目にして男子が長野県代表として 北信越大会

に出場を果たしました。さらに昨年十月には、四年生以下ソフトバレーボール大会で長野県大会優勝という輝かしい成績を残しました。

今年の六年生も精鋭揃いで、初のアベック北信越大会・全国大会目指して練習に邁進しておりましたが、コロナの影響で大会が中止になってしまいました。休

止していた練習も、感染対策を行いながら再開し、子ども達はバレーができる喜びをのみしめながら体育館に元気な声を響かせています。

バレーボールを習いたての頃は、サーブがネットまで届かなかつたり、トスやレシーブもうまく上がりませんでした。練習を積み重ね、今では相手チームの強烈なスパイクを見事にレシーブしたり、ジャンピングサーブに挑戦する子もいます。

学校生活や普段の生活もきまり良く、宿題を終わらせて練習参加、スタッフや保護者に感謝する、がチームの motto であり、子供達の健全育成にも繋がっています。今は秋の大会に期待し、全員一丸となつています。そして男女問わず、随時部員募集中です。まずは見学からお気軽にどうぞ!!



座光寺剣道クラブ

心と身体を鍛える剣道

座光寺剣道クラブは、毎週土曜日の夜七時から九時まで麻績の館で活動を行っています。現在は小学一年生から六年生までの計十人が稽古に励んでいます。素振りや切り返しなどの基本稽古の他に、実践を意識した稽古などが主な練習内容です。

日頃の成果を試すために春や秋に行われる大会に参加したり、年二回の昇級審査を受けたりしています。去年は南信大会において団体戦で準優勝という結果を残しました。個人戦でもそれぞれにベストを尽くし、好成績を収めました。また、昇級審査ではみんなが着実に級を昇格させています。

このように、自分の実力を発揮できる機会があるので、目に見えて力をつけているのがわかります。また、学年関係なく練習を行っているので、大会結果などをみんなと共有し、一喜一憂できるのも魅力の一つだと思います。その他の活動に暑中稽古や



寒中稽古の後にお楽しみ会を企画して、クラブ員の交流をさらに深めています。入部したばかりでも、基本的な動きから先生が丁寧に教えてくれるので、難しく考える必要はありません。興味のある方はぜひ見学に来てください。お待ちしております。

中体連を終えて

最後の中体連

高陵中三年
春原 賢(恒川)



今年の中体連は今までにな
いものでした。「今年の中体
連は中止。」そう聞いた時は
とてもショックで、悔しかつ
たです。僕達にとっては最後
の大会だったので、この大会
に向けて日々の練習をしてき
たので、せめて自分の力を出
せる場所ぐらい欲しかったな
と思っていました。

そんなある日、三年生だけ
代替えの大会が開催されると
いう連絡がありました。とて
もうれしかったです。

そして当日を迎えました。
アップを終えて待っている
時、たくさんのことを思い出
しました。中学に入り入部し

た陸上部での二年半の出来事
が頭に浮かびました。そうし
ているうちに僕が走る番にな
りました。このレースで最後
ということもあり、全力で走
りました。ゴールした瞬間、
自分はやりきったという思い
とともに、結果も自己ベスト
を更新することができるとも
うれしかったです。

音楽の力

高陵中三年
坂本素乃佳(市場通り)

吹奏楽部ではコロナウイル
スの影響で毎年行われている
吹奏楽コンクールやその他の
発表の場が無くなってしま
いました。私達はこのように例
年と違う中、今年しかできな
いことを考え、みんなで意見
を出し合いました。その中の
一つに「施設や保育園や学校
などに自分たちの演奏を贈
る」というアイデアがあり、
実行することになりました。
係を作って演奏曲やスタン

僕にとつての最後の大会は
とても記憶に残るものでし
た。また、コロナ禍のこの状
況で中体連代替大会ができた
ことにも感謝したいです。部
活での経験はきつとこの先の
力になると思うので大切にし
たいです。



プレイを決めるなど、一から
みんな協力してきました
が、うまくいかないことも多
かったです。しかし、演奏し
ているうちに部員みんなが笑
顔になっていてのを見て、音
楽の力、そしてみんなで一緒
に行うことで感じる一体感
本当にすごいなと改めて感じ
ました。DVDを送った後、
手紙や直接感想などを伝えて
頂き、画面越しでも自分達の
音楽が伝わっていたことがす
ごく嬉しかったです。活動が
制限され、発表の場が少なく
なってしまったことは寂しい
ですが、このような今だから
こそできることを考え、行う
ことで見えてきたことや感じ
たこともありました。今回感
じた「音楽を通してつな

保育園だより

ぞうさんおたのしみ会

年長の特別保育は、みんな
が帰った後の保育園です。そ
うと自分たちで育てた野菜を
使ってカレーを作ることにな
りました。できることはやっ
てみよう！ということ、自
分たちで火を起こし、はんご
うでご飯を炊いたり、園庭で
カレーも作りました。カレー
が煮えるまでの間、夜のプー
ルに入りました。ちよつと



保育園の畑から人参掘ったよ。
大きいのできてるかな～？



カレーの火かげんは、どうかな？



園庭に穴を掘って
はんごうのごはんだよ！

す暗いプールは特別感があつ
てみんな嬉しそうでした。
プールの底にあるお宝をゲッ
トし汗を流したところで夕食
タイム。年少さんや年中さん
が畑で作ったキュウリやマト
トを差し入れてくれて、他
学年の優しさや温かさも感じ
ながら、大盛りのカレーを「お
いしい」と食べました。お迎
えに来たお家の方と一緒に花
火をしたり、打ち上げ花火を
見て、特別な年長の夏はとつ
ても楽しく過ごすことができました。ジャンジャン。

検査結果 採取日：6月26日（水）午後2時～3時 天気：曇り一時雨 気温：31℃

採取場所	PH	BOD mg/l	SS(浮遊物質)mg/l	窒素含有量 mg/l	大腸菌群数 個/ml
①欠野沢川(中河原)	7.3 (7.5)	1.5 (1.9)	27 (10)	2.5 (2.6)	810 (410)
②白山下(河原)	7.3 (7.4)	0.9 (0.5)	16 (7)	2.1 (2.1)	510 (170)
③水辺の広場内	7.6 (8.3)	2.0 (1.2)	51 (9)	1.2 (1.4)	770 (300)
④土曾川(宮崎)	7.4	1.1	3	2.5	640
⑤南大島川(高岡)	7.5	1.1	7	1.2	480

※（ ）内の数値は昨年度の結果（R1.6.26採取）①～③は昨年度と同じ場所、④・⑤は新規実施。

河川等水質検査報告

環境衛生委員会

環境衛生委員会は、地区内五か所において、水質検査を実施し、次のような結果となりました。



水質検査の様子

座光寺地域では、地域基本構想で、清らかな水で魚が住める環境を目指して、BODを2mg/l以下に維持することを目標に様々な取り組みを行っています。本年の結果はいずれの場所でもBODは目標値以下となり、座光寺の水質の良さが確認されました。

飯田市環境アドバイザーの浅野先生によると、昨年より数値が高くなっている場所もあるが、天候などにも影響される部分もあるので、こういった原因が考えられる。数値から、座光寺内の河川は、生き物が住みやすい良い条件の水質といえるとおっしゃっていました。

座光寺には、ホタルの住むきれいな水環境が維持されています。今後も地域内の水質環境が保たれるよう継続的に水質検査を行っていききたいと思えます。



検査項目について

PH（水素イオン濃度）…酸性・中性・アルカリ性を示す指標。河川の水質基準は6.5以上～8.5以下。

BOD（生物学的酸素要求量）…BODが高いということは溶存酸素が欠乏しやすいことを意味し、10mg/l以上では悪臭の発生の障害が現れ始める。

SS（浮遊物質）…水中に懸濁している不溶性の粒子状物質のことで、粘土・鉱物に由来する微粒子や、動物性プランクトン及びその死骸、下水・工場排水などに由来する有機物や金属の沈殿などが含まれる。

大腸菌群数…大腸菌群は一般に人畜の腸管内に存在するもので、これが水中に存在することはその人が人畜のし尿の汚染を受けた可能性があることを意味する。

結鬨斗の印

麻績神社若連 代表 三村 章文



座光寺地域の皆様には、日頃より壮年団・麻績神社若連中の活動に對しまして、ご理解・ご支援いただきありがとうございます。ことに改めて感謝申し上げます。皆様ご承知の通り、コロナ禍の影響により秋に延期



を予定しておりました獅子舞等につきましては、感染拡大防止のため中止とすることと致しました。 これまで家族の皆様への不安も少なくない中、地域の皆様をはじめ関係者の方々のご協力のもと準備を進めて参りましたが、非常に悔しい思いでなりません。 来春には、皆様と共に安心・安全・盛大に開催できることを信じ、昔から座光寺に伝わる結鬨斗の印（団結・助け合い）の思いを胸に引き続き努めて参ります。より一層のご理解・ご支援いただけますようお願い申し上げます。

座光寺の自然シリーズ ②1
秋の七草

秋の野に咲く代表的な花を表す時、秋の七草が広く知られています。萩・薄（尾花）・葛・撫子・女郎花・藤袴・桔梗を言います。春の七草は食べられる草花を中心であるの対し、秋は鑑賞用の草花を取り上げているのが特徴です。

七草の由来

今は広く知られている七草ですが、その由来を調べてみると万葉集の山上憶良に行きつくようです。万葉集は奈良時代の末期、貴族文化の中で編さんされ、世界に誇れる日本を代表する古典です。ただ「秋の七草」ということばや文化は明治になって文部省の唱歌に取り上げられて一般化したようです。



ツクシハギ

座光寺と七草

奈良時代の座光寺と言えば、伊那郡御が思い浮かびます。ただこの時代、中央から来た役人には詩をたしなむ人がいたかもしれませんが、当時の庶民の生活にはまだ詩は無縁だったと思われる。人々は近世まで堅穴式住居に近い家で生活していたと思われるからです。

では七草は座光寺にはあったのでしょうか？ 今の座光寺の自然から想像してみたいと思います。7種は総て今の座光寺にはありません。ただいづれも草原や林縁に生える草花で森の中にはありません。ハギは座光寺の山にはツクシ



ススキ



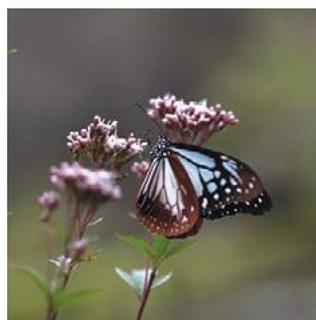
クズ

ハギが多く、公園などにあるミヤギノハギは愛知県以西の自然分布です。奈良・京の貴族はこのミヤギノハギを愛でたとされます。ススキ・クズは全国区、ほぼ同じ花を見ていたはず。ナデシコはカワラナデシコと言う種類が京も座光寺も同じだったと思われ。オミナエシ、キキョウも栽培状態にあります。山で自生を探しても見つかるかどうか。

問題はフジバカマ。旅をする蝶・アサギマダラを目当てに座光寺でも各所に植栽されています。アサギマダラも自生している近縁のヒヨドリバ



カワラナデシコ



フジバカマに来たアサギマダラ



キキョウ



オミナエシ

ナには見向きもしません。このフジバカマ、実は中国原産で自生は日本にありません。憶良が詠んだのも中国のものだったはず。そして当時の座光寺には無かったと思われるのです。

南北アメリカ、ヨーロッパも見えなかつた時代、日本文化が圧倒的な中国の影響下にあったとき、憶良が中国原産の花を「秋」を代表する花に選んだのも無理はありません。今の日本は、かの国の影響を基礎にしていると考えるでしょう。それにしてもフジバカマ原産国の最近の思想教育を思うとき、戦前の日本を彷彿とさせ、今後の関係を憂えるばかりです。

(伊那谷自然友の会・小林正明)

編集後記

先日のとある暑い日の午後、家から一時間程度の場所にあるキャンプ場にオートバイで行ってきました。

川沿いにあるそのキャンプ場は深い山に囲まれ、携帯電話も通じない場所ですが、吊り橋を渡ると炊事場があり、川遊びをするのに絶好の場所です。流れを覗き込むと数匹の魚が泳いでいます。時折、水面近くまで浮き上がっては流れてくるエサを食べているようです。アマゴでしょうか。数年前の私なら、迷わず毛鉤を振り込んでいたのですが、残念ながらその日は竿を持っておらず川辺から泳ぐ魚を眺めるのみとなりました。

七月の長雨のあと、全く雨の降らない日々が続く、渇水気味ではありましたが三十年近く前、沢登りで訪れて以来でもあり懐かしい気持ちで一杯になりました。平日ということもあり、他には誰もおらず、久しぶりに川の流れを眺めリフレッシュする事ができました。

連日、暑さが続く日々ですが、一時、涼を求めて出かけるのも良いものです。(広報部M)

